

平成 30 年度 北海道博物館 事業実施計画

平成 30 年 6 月

北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	1
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	1
(2)	企画展示の開催	2
(3)	アイヌ文化に関する展示事業【アイヌ研】	2
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	3
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化【アイヌ研】	4
4	北海道開拓の村の整備	4
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	5
(2)	教材の充実	5
(3)	はっけん広場の運営	6
(4)	アイヌ文化に関わる教育普及事業【アイヌ研】	6
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	7
7	道民参加型組織の整備	7
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	7
(2)	周辺環境の整備	7
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	7
9	広報	
(1)	広報活動の強化	7
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	8
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	8
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	9
(2)	博物館交流の促進	9
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信【アイヌ研】	9
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	10
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	10

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】	10
1.3 人材育成機能の強化	
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	11
(2) 外来研究員の受入	11
(3) 派遣研修	11
1.4 研究成果の発信と社会貢献	
(1) 学術刊行物などの刊行	11
(2) 学会への発信	11
(3) 職員の対外貢献	11
(4) 外部機関との事業連携	11
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	12
(6) アイヌ文化研究の発信【アイヌ研】	12

以下については、平成27年度の北海道立総合博物館協議会の答申を受けて、平成28年度から年度計画の中に追加したものである。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成	13
(2) 研究センター内の意思決定機関の育成	13
(3) 道庁の支援体制の育成	13

■別添資料 平成30年度アイヌ民族文化研究センター事業実施計画（抜粋）

1 展示事業	
1) 総合展示の運営	16
2) 特別展・企画展	16
3) 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展）の開催	16
2 調査研究事業	16
3 資料・情報の収集・整備事業	17
4 資料・情報等の公開・提供事業	
1) 資料の公開	17
2) 情報発信	
(1) 学術情報の集約	17
(2) 発信基盤の整備	18
(3) 学習・伝承活動への支援	18
5 成果の普及事業	
1) 教育普及	18
2) 研究成果の提供	18

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- 貴重なコレクションを含め、収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。
- 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 資料審査会の実施回数（12回）
- 受入資料件数（300件）

(2) 収蔵機能の強化

- 収蔵資料データベースに資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- 災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 一元化後の資料登録件数（183,480件）

(3) 資料保存環境の維持

- 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数（12回）
- IPMに関わる作業の実施回数（400回）

(4) 収蔵資料の利用への対応

- 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数（50件）
- 模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数（130件）
- 資料貸出資料件数（20件）

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- 総合展示の定期的な入替を実施する。
- 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。
- すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- 総合展示のメンテナンスに努める。
- 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 30 年度）
総合展示室利用者数	72,400 人
うち外国人利用者数	4,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）

設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
総合展示室利用者数	362,000 人	337,939 人		
		149,046 人	108,374 人	80,519 人
うち外国人利用者数	19,000 人	11,554 人		
		3,301 人	4,417 人	4,836 人

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ クローズアップ展示の件数 （24 件）
- ・ 総合展示室の展示品の入替件数 （40 件）

（2）企画展示の開催

- ・ 北海道 150 年を記念した魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。
- ・ 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ・ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 30 年度）
特別展示室利用者数	80,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）

設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
特別展示室利用者数	288,000 人	236,428 人		
		104,441 人	87,515 人	44,472 人

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 企画展の利用者数と満足度 （80,000 人／90％）
- ・ その他、館内外で実施した展示件数 （2 件）

（3）アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

1） 総合展示の運営

以下の 3 点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第 2 テーマのクローズアップ展示 3、4 について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、展示シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

- ② 「アイヌ文化Q & A」コーナーの運用
 - ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。
- ③ 展示資料の定期的な入替
 - ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
 - ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ① クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4とも、各3回）
- ② アイヌ文化Q & A（更新年間4回（質問8件））
- ③ 総合展示資料入替
 - ・ 衣服及び関連資料（4回）
 - ・ 装身具・祭具等（1回）
 - ・ ノート等（1回）

2) 特別展・企画展

- ・ 平成31年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ・ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」については、北海道命名150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

3) 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展）の開催

- ・ 平成30年度の巡回展を開催し、平成31年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成29年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ・ 第10回企画テーマ展の来場者数
- ・ 第10回企画テーマ展の満足度
- ・ 巡回展の満足度（96%）

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

- ・ 新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる4課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。
- ・ 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について、平成30年度に立ち上げ予定の「道民参加型組織」との連携も含めた検討を進め、実現を図る。
- ・ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。
- ・ 月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。
- ・ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。
- ・ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申

請などの手続きを行う。

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

ア 調査研究事業

- ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ・ 平成29年度で終了した個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ・ 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数
 - ①アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題4件）
 - ②アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題4件）
 - ③海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題2件）成果発表の目標値＝①②③併せて計4件
- ・ 科研等の補助金件数（4件）

イ 資料収集と整備

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成28年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ・ 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）
（2資料群）
- ・ 収集する資料の件数（4件）
- ・ 資料の所在調査等の実施件数（10件）

ウ 資料公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ・ 公開する資料件数（3件）
- ・ 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（25件）

4 北海道開拓の村の整備

- ・ 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物の補修工事等を実施する。工事は地方創生拠点整備交付金を使用し、「ヘリテージツーリングを担う人材育成拠点整備事業」として2棟の歴史的建造物の補修を実施する。
- ・ 平成31年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。

- ・ 北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について調査・検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。
- ・ 北海道 150 年に向けた「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」をもとに北海道百年記念施設のあり方について検討する。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ・ 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。
- ・ 利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。
- ・ 展示解説を要望する来館者の対応について検討する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 30 年度）
イベント参加者数	7,200 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）

設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
イベント参加者数	16,000 人	37,261 人		
		8,495 人	12,708 人	16,058 人

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ ちゃれんが子どもクラブの実施件数／参加者数 （12 件／400 人）
- ・ グループレクチャー実施件数／参加者数（中学生以下／全体）
（150 件／7200 人）
- ・ はっけんプログラム実施件数／参加者数（120 件／7000 人）

(2) 教材の充実

- ・ すでに開発・運用している「ちゃれんがラリー」などを含め、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる多様な教材の開発について検討する。
- ・ より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。
- ・ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材の開発について検討する。
- ・ 「ちゃれんがラリー」の開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが一定程度実現したなかで、障害者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を策定する。

(3) はっけん広場の運営

- 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のさらなる充実化に向けた取組を継続して行う。
- はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。
- 学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。
- 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。
- はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（平成 30 年度）
はっけん広場利用者数	20,000 人

(参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月)

設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
はっけん広場利用者数	100,000 人	82,444 人		
		34,561 人	27,689 人	20,194 人

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- はっけん広場利用者数 (20,000 人)
- はっけんプログラムの実施件数 (120 件)
- はっけんイベント参加者数 (2500 人)
- はっけんキットの貸出し件数 (5 件)

(4) アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

- 前年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容の分析や効果測定（アンケート）を行い、効果的・体系的な開催につなげる。
- グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）
(アイヌ関係 35 件)
- はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）
(アイヌ関係 125 件)
- 上記以外に行った館内イベント件数 (0 件)

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・ 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ・ 館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。
- ・ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数（4 件 7 人）
- ・ 当館が実施する教員対象の研修会への参加人数（40 人）

7 道民参加型組織の整備

- ・ 第 1 期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する（館長との意見交換の場）。
- ・ 道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ・ 全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化を図る。それにあたっては、文化庁などからの外部資金の獲得を目指す。
- ・ 道民参加型の事業を検討・実施する。

8 施設及び周辺環境の整備

（1）館内施設の整備と活用

- ・ アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。
- ・ オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ・ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。

（2）周辺環境の整備

- ・ サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。
- ・ 屋上スカイビューは、4 月 29 日から 9 月 23 日までの祝日開館日（計 8 日間）の 10:00～16:00 に開放する。

（3）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 連絡会議の実施件数（12 件）
- ・ 一体的に行う広報の件数（10 件）

9 広報

（1）広報活動の強化

- ・ あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。
- ・ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。

- 北海道博物館プロモーションビデオを道内外のさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。
- 各媒体からの照会にもとまう広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。
- 海外に向けた情報発信を強化する。
- 6か国語対応のプロモーションビデオについて、より多様な場面での活用を図る。
- 修学旅行を含め、学校団体の誘致を図る。
- 平成29年度要覧を刊行する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（平成30年度）
ホームページのアクセス数（トップページ）	160,000件

（参考：中期目標値 実績数：平成27年4月～平成30年3月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成27年4月～平成30年3月）		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
ホームページのアクセス数 （トップページ）	395,000件	690,840件		
		270,758件	219,491件	200,591件

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 入館者数／うち外国人（88,000人／うち外国人5,720人）
- 学校団体の利用者数／件数（20,500人／280件）
- 広報媒体の件数（300件）
- 愛称およびロゴマークの活用件数（15件）
- ホームページのアクセス数（160,000件）

（2）赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- 定期的な提供する情報の更新、利用者と直に接する広報活動の展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する。
- 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握するとともに、今後の赤れんが庁舎活用策についての検討を行う。
- 「サイエンスパーク」や「かるちやる net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- 「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5回）
- 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者との直に接する広報活動の回数（5回）

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- 北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）などの実施と運営を行う。
- 内部評価の実施と運営を行う。
- アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチの実施とその方法の検討を行う。
- 第2期中期目標・計画（平成32～36年度）を検討する。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（平成30年度）
利用者満足度	80パーセント

（参考：中期目標値 実績数：平成27年4月～平成30年3月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成27年4月～平成30年3月）		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者満足度	70%	92.3%（平均値）		
		85.3%	95.5%	96.1%

1.1 博物館ネットワーク

（1）各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

（2）博物館交流の促進

- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。
- ・ 連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（平成30年度）
道内市町村等との連携・協力件数	40件

（参考：中期目標値 実績数：平成27年4月～平成30年3月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成27年4月～平成30年3月）		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
道内市町村等との連携・協力件数	200件	104件		
		38件	36件	30件

1.2 情報発信

（1）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

ア 情報発信方策の再検討

- ・ 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）。
- ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

イ 学術情報の集積

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数（9 件）

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。
- ・ ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。
- ・ ソーシャルメディアについては利用者の反応の分析を行い、発信の仕方を見直すことで情報発信力の一層の強化につなげる。
- ・ ICTワーキングチームについては、設置要項案を元に部内検討および館内調整を行い、早期発足をを目指す。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ・ 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し、一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備する。
- ・ 図書の収集・除籍方針を定め、利用見込みのない図書の除籍を進めて書庫利用の効率化を図る。
- ・ レファレンスの記録の実施を呼びかけ、記録率の向上を目指し、集計記録を着実に実施する。また、レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取り組みを引き続き進める。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 30 年度）
写真の提供件数	70 件
レファレンス件数	800 件
アンケート、その他の利用件数	100 件

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）

設定内容	目標値（5 年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月）		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
写真の提供件数	350 件	342 件		
		132 件	98 件	112 件
レファレンス件数	4,000 件	875 件		
		280 件	203 件	392 件
アンケート、 その他の利用件数	500 件	55 件		
		12 件	13 件	30 件

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 写真の提供件数（70 件）
- ・ レファレンス件数（800 件）
- ・ アンケートその他の利用件数（100 件）

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 30 年度は次の 2 点を実施する。

- ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
- ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ レファレンス件数（100 件）
- ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（4 件）

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入

- ・ 博物館実習（館務実習）を夏季に 1 回実施する。
- ・ 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 博物館実習の受入件数（4 件）
- ・ インターンシップの受入件数（6 件）

(2) 外来研究員の受入

- ・ 引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案を図る。

(3) 派遣研修

- ・ 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4 件）

1.4 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

- ・ 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号を刊行する。
- ・ 研究紀要の第 4 号をウェブサイト上で公開するとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても、必要に応じて著作権等の処理を進め、可能なものから順次公開を進める。
- ・ 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- ・ 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

(2) 学会への発信

- ・ 学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。

(3) 職員の対外貢献

- ・ 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

(4) 外部機関との事業連携

- ・ 引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外

部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- ・ 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。
- ・ 北海道 150 年事業を実施する。
 - ① 特別展「幕末維新を生きた旅の巨人―松浦武四郎」(仮)を開催する。
 - ② 「北海道百年記念施設」の今後の整備についての政策的な検討を行う。
- ・ 第 2 期中期目標・計画(平成 32～36 年度)の検討を行う。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値(平成 30 年度)
新聞・報道対応の件数	計 180 件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	
その他の件数	

(参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月)

設定内容	目標値(5 年間)	実績数(平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月)		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
社会貢献件数合計	900 件	1,352 件		
		318 件	554 件	480 件
新聞・報道対応の件数		781 件		
		128 件	343 件	310 件
学会発表の件数		92 件		
		43 件	25 件	24 件
学術雑誌等への寄稿の件数		100 件		
		32 件	45 件	23 件
招待講演の件数		193 件		
		68 件	60 件	65 件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		116 件		
		38 件	43 件	35 件
その他の件数		70 件		
		9 件	38 件	23 件

(6) アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号を刊行する。
- ・ 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- ・ 必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ・ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【判断数値】(平成 30 年度目標値)

- ・ 「ちやれんがニュース」の記事数 （6件）
- ・ 他機関の機関紙等での記事の掲載数（3件）
- ・ 道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等）（1件）
- ・ 新聞・報道対応件数 （1件）
- ・ 講演依頼件数 （10件）
- ・ 各種委員への就任件数（7件）

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

（1）館内の意思決定機関の育成

- ・ 意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。
- ・ 博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。
- ・ 事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。
- ・ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受入体制の整備を進める。

（2）研究センター内の意思決定機関の育成

- ・ 研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
 - ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

（3）道庁の支援体制の育成

- ・ 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。

【別添資料】

平成30年度アイヌ民族文化研究センター
事業実施計画（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示の運営

以下の3点について、所管グループとの連携のもと、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。
- ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ① クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4とも、各3回）
- ② アイヌ文化Q&A（更新年間4回（質問8件））
- ③ 総合展示資料入替
 - ・ 衣服及び関連資料（4回）
 - ・ 装身具・祭具等（1回）
 - ・ ノート等（1回）

2) 特別展・企画展

- ・ 平成31年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。
- ・ 既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」については、北海道命名150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。

3) 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展）の開催

- ・ 平成30年度の巡回展を開催し、平成31年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成29年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する

【判断数値】（平成30年度目標値）

- ・ 第10回企画テーマ展の来場者数
- ・ 第10回企画テーマ展の満足度
- ・ 巡回展の満足度（回答者数71人/96.6%）

2 調査研究事業

ア 調査研究事業

- ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ・ 平成29年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分

けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。

- ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数
 - ①アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題 4 件）
 - ②アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題 4 件）
 - ③海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題 2 件）成果発表の目標値＝①②③併せ計 4 件
- ・ 科研等の補助金件数（4 件）

イ 資料収集と整備

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）
（2 資料群）
- ・ 収集する資料の件数（4 件）
- ・ 資料の所在調査等の実施件数（10 件）

ウ 資料公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ 公開する資料件数（3 件）
- ・ 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（25 件）

3 資料・情報の収集・整備事業

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約と発信

ア 情報発信方策の再検討

- ・ 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、

アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）。

- ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

イ 学術情報の集積

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数（9 件）

(2) 発信基盤の整備

- ・ 現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウェブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）
- ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。

(3) 学習・伝承活動への支援

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 30 年度は次の 2 点を実施する。

- ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
- ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ レファレンス件数（100 件）
- ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（4 件）

5 成果の普及事業

1) 教育普及

- ・ 引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- ・ グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）
（アイヌ関係 35 件）
- ・ はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）
（アイヌ関係 125 件）
- ・ 上記以外に行った館内イベント件数（0 件）

2) 研究成果の提供

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号を刊行する。
- ・ 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- ・ 必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。
- ・ 「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【判断数値】（平成 30 年度目標値）

- 「ちやれんがニュース」の記事数（6件）
- 他機関の機関紙等での記事の掲載数（3件）
- 道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等）（1件）
- 新聞・報道対応件数（1件）
- 講演依頼件数（10件）
- 各種委員への就任件数（7件）